

第9回MELON会員と市民のつどい

第1部基調講演レポート「安全でおいしい水を飲みませんか？」

講師／呉地正行氏



基調講演では、MELON 理事、日本雁を保護する会会長を務める呉地正行氏より、自然の仕組みの中で水の果たす役割について講演が行われました。

生命にとって「代替品が存在しない水」は地球上の水の0.01%しか利用できないこと、水の大循環の仕組みを壊さず、使えば水は無限に使えることなど、水の特徴についてお話されました。続いて飲み水に話題が移り、主な浄水方法として緩速ろ過と急速ろ過の比較が説明されました。

緩速ろ過

- ・処理速度がゆっくり。約 20cm/h
- ・水中の微生物を味方とし、安全でおいしい水を作る処理法。処理に塩素は必要としない。
- ・処理場の建設、維持コストが安い。
- ・処理場の寿命は 100 年以上。
- ・トリハロメタン（発ガン物質）の量が少ない。
- ・原虫、重金属にも対応できる。
- ・小中規模では必要面積に大差ない。

急速ろ過

- ・処理速度が速い。約 500cm/h
- ・物理的処理に塩素殺菌を組み合わせ、水中の微生物を消滅させ安全を確保する処理法。
- ・処理場の建設、維持コストが高い。
- ・処理場の寿命は 30 年程度。
- ・トリハロメタンの量が多い。
- ・原虫、重金属は除去困難。
- ・大規模浄水場は、必要面積が少ない。

緩速ろ過の普及率は処理場の約 20%、処理量の約 5%にすぎません。でも、生活者にとっては歓迎すべき処理方法です。私の住む地区で浄水場建て直しが問題となったなら、私も住民の一人として声をあげたいと考えました。

理事 岩崎玲子

事務局 竹の箸作りレポート

今年は『国際コメ年』。“そうだ。もちつきをしよう。”ということになりました。手づくりのもちと最近話題のリサイクル容器。それではお箸は？ということになり、現在の割り箸事情に提言する形で、竹箸製作にチャレンジすることになりました。竹箸経験をお持ちの K 氏に相談したところ、ご自宅の裏庭に自生しているとのこと。竹切りにいざ出陣です。

たくさん生えている中から大きく頑丈な竹を品定めして、ギコギコ…たった 1 本でじゅうぶん。まずは長さをそろえるためホームセンターに出張作業。グエイーン。あっという間に終了。ナタで本数分に割って、箸のおおまかな形ができあがりです。

ここまでの作業は順調。さあ、ここからが大変。持ちやすく、そして食べやすくするために、形を整えなければなりません。MELONnet で、『お箸をつくりませんか？』と呼びかけました。数名が箸づくりに参加してくださいました。感謝…感謝…。



材料となる竹を調達

第2部 アトラクションレポート

絢爛なすずめ踊りを披露して下さったのは、日専連青葉組の皆さん。



仙台スタジアムで回収した紙コップから再生紙ができるまで簡単な実験！
(仙台スタジアムごみ減量大作戦プロジェクト)

つきたてのもちや、緑・食部会で作った味噌や大豆が振舞われて大好評！



水部会の活動紹介は、一足早い夏休みの気分です。笹舟作りに水ヨーヨー、子どもたちに大人気でした♪



1本1本丁寧に削りました。

1本、1本それぞれに味がある作品(?)に仕上がりに、M事務局員宅にて煮沸消毒、乾燥を済ませ、完成。あとは本番を待つのみです。

6月26日。今日は竹箸デビューの日。もちつきの時間になりました。みんなどんな思いでお箸を使ってくれるでしょう。私たちの地球への想いが、うまく伝わったのでしょうか?あの日には“もち…だけ”に夢中だったみなさんも、これを読んで『あー、そういうことだったのか?』と改めて感じていただければ、幸いです。

事務局 阿部小百合



日本の割り箸の使用量は年間 257 億膳。そのうち輸入による供給量は 97% (99%が中国から) 国内生産量はわずか3%しかありません。[2003年/林野庁]
現在中国では、森林伐採のために洪水がおきたり、砂漠化が進んだりしています。日本でもっと間伐材が有効利用されれば、割り箸も国内生産でまかなえます。

